

令和7年度「健康にいがた21」評価・進行管理部会 議事概要

日 時 令和8年3月9日（月） 午後3時30～5時30分

会 場 新潟県庁 5階 会議室508

出席者 委員名簿のとおり

1 開会（相馬課長あいさつ）

2 公開・非公開の取扱い

公開することを了承

3 議事

（1）「健康にいがた21（第4次）」進捗状況と取組について

事務局から資料1、2について説明

→主な意見は以下のとおり

< 栄養・食生活 >

- ▶ 県がやるべき対策としてはひと通り、進んでいるという印象。一方で、成果として結びついていないことが課題であり、引き続き確認していく必要がある。
- ▶ スーパーマーケット等の小売店で県や市町村と連携し、健康に配慮した弁当や惣菜を購入できる環境整備を行う取組はとても良い。今後、メニューや活用の方も広げてほしい。
- ▶ 男性の肥満が増えてきていると感じる。肥満の定義としてはBMI25以上であるが、BMI25付近が理想ともいわれている。BMIのどの層（25なのか30なのか等）が増加しているかを確認していく必要がある。また、全体として肥満が増えているということは明らかなため、対策は必要。

< 身体活動・運動 >

- ▶ 女性の運動不足が顕著であり、女性に特化した対策が必要。
- ▶ 子どもの頃から運動・スポーツに触れることは重要であり、引き続き年間を通じて子どもが様々なスポーツに触れられる機会の提供が必要。
- ▶ 県健康アプリやち～とばっか動効果の露出機会を増やせると良い。
- ▶ 高齢者に対しても日常的に筋肉量を増加させる取組が必要。そのためには、若い世代からアプローチをし、習慣化することが重要。

< 歯・口腔の健康 >

- ▶ 学校保健での良い口腔衛生習慣が大人になって引き継がれないことが課題であったが、県と市町村との連携により、高校でも取組が広がっていることは大きな進展である。

- ▶ 企業における歯みがきスペースの整備支援は効果があるが、保健指導と合わせた取組が必要。

< 喫煙・飲酒 >

- ▶ 喫煙対策は進んでいるものの、若年女性の喫煙率は横ばいであり、ターゲット施策が必要。
- ▶ 喫煙対策において嫌煙教育は重要であるため、引き続き実施が必要。
- ▶ 電子たばこなら良いという意識があるように感じる。電子たばこに含まれる有害物質に関するデータ蓄積も進んできているため、情報提供の強化が必要。
- ▶ 喫煙に関しては、世界的に見るとがん対策だけでなく、COPD対策が重要。一方で、日本はCOPDに対する早期診断体制がないことが課題。
- ▶ 飲酒については、「安全な飲酒量は存在しない」という国際的知見を踏まえた情報提供の強化が必要。

< 生活習慣病の発症・重症化予防 >

- ▶ 高校を卒業してから概ね40歳になるまでの間は、健康に関する知識がある人とない人で大きな差があるため、健康経営の観点も取り入れながらアプローチをしていくことが必要。

< 女性の健康 >

- ▶ 女性の性周期に関する対応に加え、若年女性の低体重、女性の飲酒・喫煙などの問題にも重点的に取り組む必要がある。

< 健康づくりのための環境整備(健康経営) >

- ▶ 健康意識が低い人へのアプローチが課題であり、健康経営という切り口は重要。
- ▶ 健康経営に取り組む企業数や割合の推移についても、資料2の指標一覧に参考情報として記載することが望ましい。

< 全体を通して >

- ▶ 取組内容だけでなく、取組の規模を測るためアウトプット(何人に何回働きかけた等)をまとめた資料等があると良い。

(2) 計画において現状値が未把握となっていた指標について

事務局から資料3について説明
→意見なし

(3) 健康寿命について

事務局から資料4-1について説明後、新潟大学大学院医歯学総合研究科 血液・内分泌・代謝内科学分野 教授 曾根 博仁 氏より資料4-2について説明

< 主な意見等 >

- ▶ 健康寿命の評価には、複数のアウトカム指標を併用(要介護認定、国民生活基礎調査)し、多方面から分析・評価を行っていくことが重要。
- ▶ 高齢者であれば認知症、関節疾患、脳卒中等、中高年であれば糖尿病や循環器疾患等、ライフステージ別に分析をしていくことが重要。

4 報告事項(情報提供)

(1) 働く世代の健康づくりにいがた共創プロジェクト

(2) にいがた STOP 高血圧プロジェクト

事務局から資料5、6について説明

4 閉会